

ホンモロコ天然卵からの親魚養成とその採卵

大植伸之・岡本晴夫・磯田能年・米田一紀・大澤宏史

1. 目的

近年著しく激減したホンモロコ資源の回復を目的に、平成 18 年度から大量種苗生産放流が実施されている。

水産試験場では、天然卵からの親魚養成(F0)と(公財)滋賀県水産振興協会が実施する大量種苗生産用親魚(F1)にするために必要な卵の供給を実施した。

2. 方法

1)親魚養成

①天然卵の採集

令和元年 5 月 3 日から 6 月 11 日に、長浜市湖北町延勝寺地先、守山市今浜町地先、高島市新旭町針江地先の琵琶湖、西の湖、西の湖に流入する山本川で、柳の根や藻等に付着したホンモロコ卵を採集した。

②飼育管理

採集した卵から得られたふ化仔魚を、30L 水槽に、1 水槽あたり約 2,000 尾までとなるように計数して収容した。収容後は主にツボムシを給餌した。30L 水槽での飼育期間は約 2 週間とした。

その後は、40 m²の屋外池に放養して飼育した。放養から 2 週間はワムシおよびアルテミア、それ以降は配合飼料を給餌した。

2)経年魚からの採卵

平成 28~30 年度に生産した親魚から採卵を行った。採卵は、平成 31 年 4 月 17 日から 4 月 29 日に、2 回実施した。方法は、自然産卵による採卵とし、水面に浮かべた人工基体に産卵したものを回収した。

3. 結果

1)親魚養成

①天然卵の採集

卵の採集は、期間中に 7 回行った。合計

20,400 尾のふ化仔魚を得た。

②養成

育成期間中は、特にトラブル等がなく、順調に育成することができた。

令和元年秋時点(0 歳魚は 9 月時点、1、2 歳魚は 11 月時点)での年齢別の親魚量を表 1 に示した。0~2 歳魚をすべて合計すると、20,179 尾、116.5kg となった。

表 1 年齢別のホンモロコ親魚生産結果

年齢	池数(面)	尾数(尾)	重量(kg)
0歳	3	8,526	29.79
1歳	3	9,158	58.89
2歳	2	2,495	27.84
合計	8	20,179	116.52

2)経年魚からの採卵

時期別の採卵結果および使用目的を表 2 に示した。4月17日から4月21日に2,930,000 粒、4月27日から4月29日に2,800,000 粒を採卵した。年齢別にみると、2 歳魚からの採卵量が最も多かった。

卵は 390,000 粒を当场で使用し、5,340,000 粒を(公財)滋賀県水産振興協会へ提供した。

表 2 時期別のホンモロコ採卵結果および使用目的

	1回目 (4/17~4/21)	2回目 (4/27~4/29)	計
採卵数(千粒)	2,930	2,800	5,730
協会へ提供	2,540	2,800	5,340
当场で使用	390	0	390